

□9月29日説教(短縮版)小松理之牧師  
「信仰に守られて」ローマの信徒への手紙3:25

「神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。」この御言葉に、教会の一丁目一番地がよく示されています。教会固有の恵みであり、十字架にかかって死んだキリストが“神の義”を世に現してくださいました。

振り返ると、旧約の時代、神の律法が中心だった時代に明らかになったことは、人は皆、神の律法を守る行いによっては救われないということです。悪い行いによって救われないだけではありません。神の律法を守る“善い行い”によっても救われないのです。ヨシヤ王やエステル、ダニエルのように“善い行い”の人たちでも、人は皆、誰一人、神の律法を完全に守ることはできず、神の御前に罪があるのです。「律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされない。律法によっては、罪の自覚しか生じない」(ローマ3:20)のです。キリスト者は、行いによってではなく信仰によって救われているのですが、この信仰をもたらす、やがて来るべきメシア(救い主)が待ち望まれたのです、罪の贖い主として。

このお方こそ、私たちの主イエス・キリストです。このお方は、律法を守る“善い行い”にもよらないで救われる道を切り開くために、天の父から世に遣わされたのです。(クリスマス) 信仰によって救われる道であり、この信仰は、実に、主イエスの十字架の死によって、世にもたらされたのです。(ご受難)(マルコ15:39) このお方が、死者の中から三日目によみがえって死に勝利され、神の命を現わしてくださいました。(イースター) 世の罪を贖い、死を滅ぼし、ご自身の命にあずからせるために、天の父が約束した聖霊が注がれて、教会が世にもたらされたのです。(ペンテコステ) 私たちは今や、主イエスの十字架の下に完全に置かれ、“信仰によって”旧約の時代から待ち望まれた神の救いにあずかっているのです、新しい契約の民たちとして。(終)